

実践報告

鑑賞と表現を一体的に捉える授業についての考察 — 1 学年「新たな表現の世界へ」の授業づくりを通して —

古川 秀明*

Examination about the Lesson to Improve which the Ability to Grasp Appreciation and Expression as One Thing

— Through Creating Lessons for 1st Graders " To the New Expression World " —

Hideaki FURUKAWA*

【要約】

本研究は、題材「新たな表現の世界へ」からの考察である。風景画の表現と印象派絵画の鑑賞を一体的に扱った授業を行った。印象派絵画の特徴について考察させ、生徒自身が課題を設定し学習を進めた。鑑賞ではE・B・フェルドマンの批評学習を活用し、鑑賞の前後に表現活動を設定した。印象派絵画の鑑賞で学んだことを生かしながら表現を行い、鑑賞後の作品と鑑賞前の作品を比較鑑賞させることで、表現の変化の捉え方に深まりが生まれたのか、また、表現と鑑賞の力が相互に高まりを見せたのかということについて検証を行った。

【キーワード】

表現力と鑑賞力、批評学習、比較鑑賞、相互鑑賞

1. はじめに

本校美術科では、これまで生徒の発達段階に応じ、独立した鑑賞や表現と一体となった鑑賞活動を年間指導計画に位置づけ、指導のねらいを明確にしながら、適切な鑑賞教材の開発に重点を置いてきた。これは、鑑賞することで表現が、表現することで鑑賞がよりよいものになっていくように関連を図り、相乗効果を生むような指導を目指すという美術科の大きなねらいに基づいたものである。

鑑賞活動では全学年において主にフェルドマンの批評学習を活用し、作品を深く鑑賞させている。この学習方法では鑑賞の視点を焦点化しやすく、作品から何かを感じ取ったりイメージしたりする視点を探することが苦手な生徒にとって、特に効果的な方法であると考えている。また、記述段階では発言の機会が少ない生徒も授業に入り込みやすく、言語活動の充実も期待できる。鑑賞で得た力がおのずと表現に生かされたり、表現で得た力が鑑賞に生かされたりするような、相互に力が高まっていく指導を目指し実践している。

美術科の授業において、全ての題材でこのような実践を試みてはいるが、鑑賞による表現力の向上や、表現力の高まりに伴う鑑賞力の向上を十分に把握できているわけではない。

そこで、生徒の表現や鑑賞する力が相互に高まっているのかどうかということについて、印象派絵

*佐賀大学文化教育学部附属中学校

画の鑑賞と風景画の表現を一体的に扱った授業実践を通して明らかにしていきたい。

2. 単元目標と内容

(1) 研究対象となる学級

本校の第1学年2組(男子20名, 女子20名)は, グループ活動やクラス全体での発表の場などで活発に自分の意見を述べようとする雰囲気がある。2学期に実施したアンケートでは, 80%の生徒が鑑賞活動を好きだと答えており, 75%の生徒が表現活動を好きだと答えている。その一方で, 表現が得意だと答えた生徒は20%, 鑑賞が得意だと答えた生徒は27%にとどまっており, 活動自体は好きだが, 苦手意識を持っている生徒が多いということがわかる。鑑賞にはどのような意味があるのかという質問に対しては, 作品に込められた想いを理解する, 自分の考えを他者に伝える, 多くの表現を知ることによって自分の表現に生かせる, などと回答しており, 苦手意識がありながらも, 鑑賞の重要性を理解しており, 鑑賞に対する興味関心は高いと考えられる。

(2) 題材名 「新たな表現の世界へ」

(3) 題材の概要

本題材は, 風景の表現と印象派絵画の鑑賞を一体的に扱ったものである。美術の表現の多様性と基礎的な技法や価値を理解させる一つの手段として, 第1学年では印象派の作品を中心に, フェルドマンの「批評学習」を活用して鑑賞を行った。本題材では様々な印象派の作品を鑑賞し, 互いの考えを交流させ, 印象派絵画の特徴について考察させた。また, そのよさや特徴を段階毎に確認しながら, 自らの表現に生かすために, 印象派絵画の鑑賞と風景画の制作を一つの題材として進めた。これらの意図から「印象派の絵画は, なぜ世界中で愛されているのだろうか?」という題材を貫く問いをもとに, 生徒自身が課題を設定し学習を進めるようにした。印象派絵画の鑑賞活動で学んだことを生かし, 生徒自身の現在の作品と以前の作品を比較鑑賞させることで, 表現がどのように変化したのか気付かせることを主なねらいとした。

題材の流れは, まず, 学習課題「光を意識して木を描く」で光と影に着目させて八つ切りの画用紙に風景を描き, 「相互鑑賞をしよう」で表現の工夫点を見つけ共有した。表現活動の後, 批評学習の方法を学ぶために「批評学習について学ぼう」で, モネの印象一日の出一を鑑賞させた。批評学習の方法を学んだ後, 「印象派絵画を鑑賞しよう」の様々な絵画を鑑賞させた。ここでは光の探究を行った印象派絵画の特徴を掴むことをねらいとした。その後「構図について学ぼう」で透視図法や空気遠近法, 色彩遠近法などについての基礎をおさえ, スケッチ会に取り組んだ。

最後に「比較鑑賞で表現の変化を見つけよう」で, 昨年度と今年度, 印象派鑑賞の前後の作品を比較鑑賞させ, 生徒間で意見を交流させた。

題材の流れ (11時間)

- 1 木を描くというテーマで風景写生を行う。
- 2 表現の工夫について意見交流する相互鑑賞を行う。
- 3 フェルドマンの批評学習の手法を学ぶために, 印象派の絵画を鑑賞する。
- 4 光の探究を行った様式の特徴について学ぶために, 印象派の絵画を鑑賞する。
- 5 構図について学ぶ。
- ※ スケッチ会で風景を描く。
- 6 風景を描く。
- 7 鑑賞前の作品と鑑賞後の作品を比較鑑賞する。

3. 授業の実際

(1) 鑑賞活動の記述内容と分析

批評学習の基礎を学ぶ鑑賞活動から題材の最後に設定した比較鑑賞及び相互鑑賞までの記述内容の変化について分析を行った。以下の内容は4名のグループ（男女各2名）1班に焦点を絞り、まとめたものである。事前アンケートとこれまでの実践から判断し、生徒Aは表現及び鑑賞ともに苦手意識を持っている生徒、生徒Bは鑑賞での深い読み取りはあるが、表現に苦手意識を持っており意欲が低い生徒、生徒Cは表現及び鑑賞ともに平均的水準の生徒、生徒Dは表現及び鑑賞ともに能力が高い生徒と捉えた上で、分析を試みた。

※下の表にあがっている「記述」「分析」「解釈」「評価」は、鑑賞の時間で活用しているE・B・フェルドマンの批評学習の項目である。それぞれの段階毎に作品の読み取り方を示唆し、焦点化を図るために活用したものである。

生徒Aの記述内容の変化

		記述	分析	解釈	評価
生徒A	①モネ 「印象－日の出－」	暗い、船でどこかに連れていかれている、戦後みたい、生き残り	記述無し	戦後で生き残りがひつしに船をこいでいる。	とてもおもしろい作品だと自分は思いました。
	②ゴッホ 「星月夜」	夜、光、津波、教会、風、山、月、家	・暗い色を使っている。その中にも明るい色を使っている。 ・とても筆できれいに描いている ・筆でそってあるように描いてあって、風がリアルに描いてあるところがいい。	記述無し	ゴッホ作で、もうちょっとで死ぬという時に描いたような絵で、とても暗い。でもその中にもちょっと明るい色がすこしまぎれている。ちょっと白も使われている。
	③鑑賞前	茶色しかまだ色をつけていない。木がいっぱいからまっている。木に筆あとがのこるようにかいた。			
	④鑑賞後	基本、明るい色でかけなので少し暗くしている。ほそい木に緑色の筆で点をいっぱい描く。木がとてもくねくねしている。			
	⑤表現の変化	木もほそくして光を意識する方はまだ暗い。制作中は全体的に明るい。			
	⑥印象派絵画の鑑賞と自分の表現の変化の関係	やはり筆のあとが一番変化があると思います。前のはよく筆あとがのこっていたけど、今回つくったのはできるだけ筆あとをのこさないようにしてみた。			

生徒Aは記述内容が不十分であり、満足な鑑賞ができたとはいえない。①②ともにそれぞれ分析、解釈段階で未記入の部分が見られる。評価での記述内容は変化しているが、分析と解釈段階で出すべき内容が混在している。④で点描について触れおり、印象派の鑑賞から気付いたことが表現の変化につながっているようにもとれるが、一方で⑤では自らの表現において筆触が無い作品の方が良いということを述べており、印象派絵画の特徴でもある筆触の魅力については今回の鑑賞から掴めていなかったと考えられる。

生徒Bの記述内容の変化

		記述	分析	解釈	評価
生徒B	①モネ 「印象一日の出ー」	きれい、夕日が キレイ、船、海	・オレンジ、あわい色 ・海と陸を入れている。 ・遠近法	日本の朝の 人の動き。	暗くぼやけているところが好き。
	②ゴッホ 「星月夜」	まがまがしい雰 囲気の中に明る い感じがある。 木、三日月、教 会、山、家、星	・明るい色を中心に行っているけど明るい色も入れ目立てる。 ・木を前に持ってきて家などを小さく描いている。遠近法(たぶん) ・油絵でぐにやぐにやに描いている。浮いているようにみえる。彫ってあるようにみえる。	作者は夜の あらあらしさ、まがまがしい雰囲気を描いたのだと思う。高いところから描き、あの世に近づいている事を描いていると思う。	筆あとが残っていて、うまくキレイにあつかっている。自分的には好き。暗さの中に明るさを入れているからよくできていると思う。
	③鑑賞前	色を変えてある。手前だけ描いてある。			
	④鑑賞後	光の当たり方で少し色を変えた。奥行きも考えた。奥にある木をだんだん小さくした。			
	⑤表現の変化	色の使い分け、光の当たり方で変えた。			
	⑥印象派絵画の鑑賞と自分の表現の変化の関係	いろんな人の絵を見ることによって絵の色の分け方がよくわかった。描き方もよく分かった。技法も分かり、点描も挑戦できた。奥と手前で変わる描き方がわかった。			

生徒Bは鑑賞で出てきた語彙に注目できる。特に②では記述と解釈の段階で「禍々しい」という表現を行っており、自分が持つ語彙の中からゴッホの表現に最適な言葉を選択しようとしている。また解釈段階では、①での不十分な記述から②のような⑤で本人の作品を比較鑑賞しているが、今回の題材の鍵となる「光」の捉え方に着目できている。⑤では鑑賞が表現の変化につながったと述べている。点描というキーワードを挙げ、挑戦したと書いており、今回の印象派の絵画が表現につながる鑑賞となったと捉えていることがわかる。

生徒Cの記述内容の変化

		記述	分析	解釈	評価
生徒C の記述	①モネ 「印象一日の出ー」	暗い感じの絵、 夕日、船、煙、 工場、海	・船や夕日を濃くかき、背景をあわくうすい色で描いてある。 ・水面に影を描いてあり、左ははっきり描いてあるが、右になるにつれて見えにくくなっている。 ・奥の方は更にぼかしている。	少し暗いので、作者の気持ちも少し暗かったんだと思います。	少し暗いけど、朝日が明るかったりして、少し目立つような変化がある。

	②ゴッホ 「星月夜」	周りが暗いので月や星の黄色が目立っている。山、家、月、星、夜空、木、教会	<ul style="list-style-type: none"> ・暗い色（青、あい色、黒）などで周りをぬり、黄色や白の明るい色を目立たせている。 ・木のような大きなものを前にもってきて、その後ろに空や家を描いている。 ・空を短い線を重ねてかいて波のようなものをかいている。星や月の周りの黄色。 	ゴッホはこの時暗い気分だったのだと思います。その気分の中でやりたいことや楽しいことが見つかったりした時の気分を表したのだと思います。手前にある木はあの世へつながるロープ！？	私はこの絵が好きです。暗い色の中に白や黄色の月や星があり、きれいです。それにゴッホの絵の特徴である短い線で空の流れや山の流れや山の流れ、手前にある木のような空につながっているものの流れなどがある所が私はいいと思います。
	③鑑賞前	似た色を少しずつ変化させている。木や空は一色だけでかいている。木だけを大きくかいている。木に筆あとが残っている。			
	④鑑賞後	光の当たり方や混色ができている。遠近法を使って前と後ろの奥行きをつくった。影のつけ方や木の枝の光での変化で色を変えている。			
	⑤表現の変化	色の変化ができるようになっていく。構図もきちんと考えて遠近感が出ている。筆あとを残すことができた。			
	⑥印象派絵画の鑑賞と自分の表現の変化の関係	鑑賞をすることによって、絵にどのような変化があるかが分かりやすくなる。そうすると、自分の絵の描き方に変化が出たりする。絵をどのように表現するかが変わる。			

生徒Cは記述内容の量が多くなっており、深い読み取りができるようになってきている。特に解釈段階では②で作者の心情や作品の主題に迫ろうと試みている。②では短い線という点描に関する記述があり、表現の特徴については掴めていることがわかる。③④⑤では、鑑賞後の表現の遠近感について触れており、印象派の鑑賞で特筆すべき点ではない遠近感の部分で良くなったという記述が見られる。今回の題材で鑑賞した作品のよさは理解した上で、知った技法を全て表現につなげようとした訳ではない。しかし筆触の変化については跡を残したとあり、その点では表現にいかしたと言える。⑤では比較鑑賞による学びについて触れており、表現は鑑賞の見方の変化と密接なつながりがあることを理解していることがわかる。

生徒Dの記述内容の変化

		記述	分析	解釈	評価
生徒D	①モネ 「印象－日の出－」	暖かい感じの日の出に少し寂しげな船がある。影がきれい。破壊したり煙が出たりして何かあったみたい。空の違いがはっきりしている。日の出の空、海（水面）、煙、影、破壊した船、人が乗っている小舟	<ul style="list-style-type: none"> ・空の色の違いがはっきりしている。暖色の空に煙の灰色が重なっている。人が乗った小舟の影が水面に映っている。日の周りは暗め。 ・空より水面の方が大きい。 ・水面に日の影が映っている。周りが青に淡く日のオレンジが入っている。煙の出ている近くが濃く、空の方にいっている煙は薄くなっている。 	暖かい色の空に対してまわりが暗いため、作者の心情を暖かい日のように置き換えて強調している。	この作品はいいと思いますが、何か寂しい想いや明るい想いが込められていそうだと思う。日がよく強調されていて、影がいろんなところでできているのを表現できていて美しいと思った。後ろをぼかしているのが好き。

	②ゴッホ 「星月夜」	空がまわっている→混乱？暗い夜の中に月や星が輝いている。月、星、家、山、星、木	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に色は暗いが月や星によって明るい所もある。 ・手前にあるものを左側によせて背景もしっかり描かれている。 ・彫ってあるように見える。月や星の周りが少し明るくて離れるほど空の色に戻る空が流れるように描かれている。 	暗めだから作者の想いも暗かったのかと思っただけ、明るい星や月に作者の希望や明るい想いも込められていると思います。あるいは、このような風景を実際にみて感動して描いたのではないかと思います。	私はこの絵を良いと思います。なぜなら空が暗い中に明るい星や月が引き立ち、筆あとを残して流れるような感じがして、夜の星や月がとても印象的だったからです。筆あとを残し、短い線を重ねることで彫っているように見えるところが好きです。
	③鑑賞前	色があまり重ねられていない。混色ができていない。木を真ん中にもってきていてまとまりがない。うしろの木と前の木の遠近法がわからない。ただぬっているだけ。			
	④鑑賞後	何色も色を重ねてある。光の当たり方を意識して描けている。右の方に大きく木を描くことによってまとまりがある。奥を小さく手前を大きく→遠近感。点描を使ったり、にじませたりしている。			
	⑤表現の変化	混色ができていて、光の当たり方が意識して描けている。奥を小さく手前を大きく描くことによって遠近感がつけられている。ただぬるだけでなく、点描を使ったりにじませたりしている。			
	⑥印象派絵画の鑑賞と自分の表現の変化の関係	鑑賞をすることによって新しく知った技法を用いることができました。また、その新しく知った技法でどんな効果があるのか、どんな印象をもたせることができるのか分かったので、自分の作品を考えて活かせたと思います。			

生徒Dは題材の1回目の鑑賞となった①の記述内容も十分に深い読み取りを行っている。分析では暖色や影、空気遠近法などについての記述が見られる。解釈段階では題名になっている日の出を作者の心情と重ねて捉えることができています。③④で鑑賞後の重色や混色による変化について記述があるが、これは⑥にあるように、鑑賞からの学びがいかされたと考えていることがわかる。また、⑤にはこの題材の軸となる「光」についての記述もあり、意識が高くなったと記述している。また、⑥では鑑賞で学んだ技法や方法がもたらす効果や印象の変化について理解し、自分の表現にいかしたと明記しており、今回の鑑賞と表現は相互に絡み合いながら進められたと言える。

(2) 鑑賞前の作品と鑑賞後の作品の比較鑑賞及び意見交流（批評学習の記述内容を基に）

前述のグループ（生徒A～D）のそれぞれの比較鑑賞について意見交換を行った。記述内容を基に各生徒が自分の作品分析について簡潔に述べ、他者の意見を聴く場を設けた。発言内容からどのような変化が見られると捉えているのか、作者自身とそれについて発言した生徒の分析を試みた。この活動の前に小学校6年次と中学校1年次の作品を全体で比較鑑賞し、その表現の変化について共有する時間を設けた。

生徒 A の二作品の比較と表現の変化についての意見交換



図 1 生徒 A の鑑賞前の作品



図 2 生徒 A の鑑賞後の作品

- A 光を意識する方（木を描くの作品の方）はまだ色をあんまりつけていないから暗い。制作中の作品は全体的に明るい。
- B 木のうねうねまでしっかりと描いている。
- C 色の濃いところから段々と明るくなっている。
- B なぜ明るくなっているんでしょう。
- C 光が当たっているからじゃないかな。
- B 何で背景がこんなに白いの。天国に生えた一本の木みたいなイメージ。
- C 光のグラデーション。自分的には前の絵の方がいい。色がパキッと分かれてないから。

生徒 A は鑑賞後の方が明るいと言っているが、木の幹のことなのか背景のことなのか明確でない。B と C のやりとりからは鑑賞前の「光を意識して」という指導者側の意図が伝わっていたようで、光の表現に着目していることが読み取れる。ワークシートの記述にあったように、A は筆触をできるだけ消してはいるが、類似色相の重色を行ったことで見えにくくなっているだけのようにもとれる。幹の色で言えばほぼ単色の濃淡での表現から混色や重色を意識的に行った表現に変化しており、鑑賞からの学びが見られる。作者は気付くことができていないようである。

生徒 B の 2 作品の比較と表現の変化についての意見交換



図 3 生徒 B の鑑賞前の作品



図 4 生徒 B の鑑賞後の作品

B 前のやつは光の当たり方を考え、色を少しばかり変えている。今制作途中の作品は光の当たり方などを考えて、光が当たって無くて影が出来ているところは藍色を全体的につけたりとか、芝生の方は光の当たり方で影になっているところに影をつけたりしました。

構図は前のやつは手前の木だけを大きく描いていたけど、今のやつは奥行きも考えて描きました。

形態や描き方については、前のやつは特に意識していなくて、今の作品は奥に行くにしたがってどんどん小さくなっていくようにしたことです。

A 遠近感があっていい。

D ところどころの木の葉の色とかが変わっててすごくいい。

C 色の変わり方が気になる。ここが緑、ここが黄緑、なんかここをもう少しぼかして・・・

B ぼかし方を知らない。

C なんかこう、自然な感じに・・・

B 自然じゃない。十分。

C えー

B 本当にこうくっきり分かれてたんだよ。白いところもあれば・・・

生徒Bは発言内容を見ると光を意識して彩色に取り組んでいたことがわかる。客観的に観ると表現自体に大きな変化はないようだが、本人も述べているとおり、葉が集合している部分で色の変化が見られる。Dが後半のBとCのやりとりから、Bはまずこの題材でおさえていた基本的な技法であるにじみやぼかし、点描などを理解できていない可能性が高いことがわかる。

生徒Cの2作品の比較と表現の変化についての意見交換

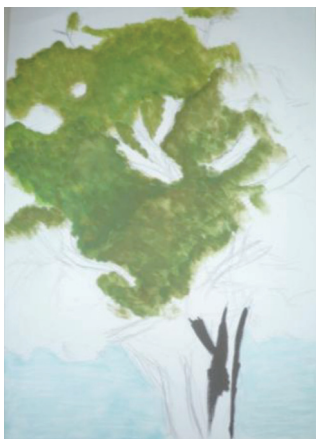


図5 生徒Cの鑑賞前の作品



図6 生徒Cの鑑賞後の作品

C 前の絵は似たような色で変化があまりない。今の絵は光が当たっている部分など色の変化がある。木の幹の色は濃いところや薄いところがある。

構図は前の絵は木だけを真ん中にどんと描いてるんですけど、今の絵は木を手前にして図書館を後ろに持ってきました。

B 前の作品と今の作品では、色の使い方をしっかり学習して使い分けている。光の当たり具合を考えている。前の作品は同じような色が多い。

D 地面の方の筆跡が残っていていいと思います。

生徒Cは色の変化と濃淡に着目している。構図にも視点を持っており、今回の批評学習を活用した鑑賞で作品を観る際に行った項目の確認が生かされていることがわかる。Bが述べているとおり、色にも確かに変化が見られ、木にあたった光の色をよく観察して制作している。Dは筆触が残っているのいいと発言しており、印象派で特徴的だった点描や筆跡への意識が高まったと考えられる。

生徒Dの2作品の比較と表現の変化についての意見交換



図7 生徒Dの鑑賞前の作品

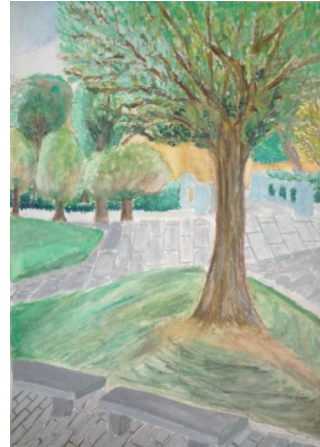


図8 生徒Dの鑑賞後の作品

- D 最初の絵に比べて補色ができるようになっていて、光の当たり方も意識して描けていると思います。奥を小さく手前を大きく描くことで、遠近感を出しました。ただ塗るだけじゃなく、点をつかったりにじませたりして技法を考えて描きました。
- B 前の作品はクレヨンで描いた感じがすごいする。全体的に白っぽい。今の作品はしっかり描いていて光の当たっている所と当たっていない所がよくわかっていいと思います。
- C ここの木の幹とここの芝生の色の変化がいいです。
- A それこそ点描だよ。
- B 幻想的に描いてある。

生徒Dは光への意識が高まったと捉えており、作品からもその変化がわかる。色の重なりで複雑な木の色彩をじっくり観察しようとしている。遠近感について述べているのは構図についての学びを生かしたからであると考えられる。鑑賞前の絵では縦横に画用紙と並行になる線が多かったが、鑑賞後の絵では斜めに線が入る構図を意識的につくりだした。

4. おわりに

今回の題材では表現と鑑賞の一体化を意識し、実践を行った。この相互補完的な関係の重要性は、以前から学習指導要領でも取りあげられていることであり、本校でもどのようにカリキュラムを考えていくか常に研究の対象となってきた。

今回の実践で、表現と鑑賞に密接な関係があり、鑑賞により表現が高まっていくと理解した生徒が増え、実際に表現の変化、記述内容の変化が見られたことは貴重だった。その変化とは、美術作品を鑑賞する際の視点の変化、自らの表現を分析する視点の変化、他者の表現を分析する視点の変化、表現では色や形・構図などの構成や使う技法の幅の広がり、主題の深まりなどが挙げられる。生徒間の格差など課題もあるが、発想や構想の能力や創造的な技能、鑑賞の能力にかかわる資質・能力を効果

的に身につけることに役立ったと考えられる。

課題としては、作品との対話や生徒同士の対話をフィードバックして整理し直させたり、それらをより効果的に題材に組み込めたりするように柔軟な展開を意識していく必要性が挙げられる。

参考文献

秋田喜代美『はじめての質的研究法 教育・学習編』東京図書. 2007.

福本謹一・水島尚喜『中学校 新学習指導要領の展開 美術科編』明治図書. 2009.